

海外の畜産物の需給動向

牛肉

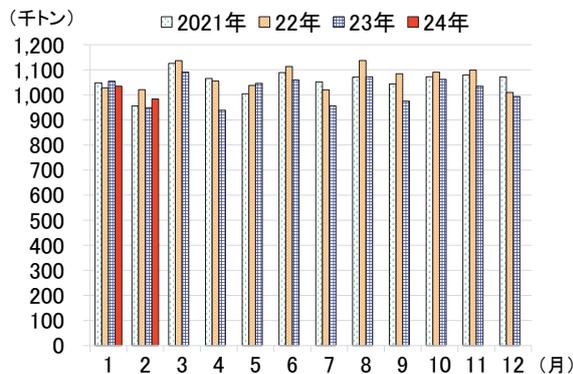
米国

24年1月の牛肉輸入量は過去最高

24年2月の牛肉生産量は前年同月比3.6%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年2月の牛と畜頭数は、256万5000頭（前年同月比2.6%増）とわずかに増加した。この結果、同月の牛肉生産量は98万4000トン（同3.6%増）と前年同月をやや上回った（図1）。肥育牛価格の高騰に伴い繁殖雌牛が肥育に仕向けられたことなどによると畜頭数の増加や、肥育期間の長期化による平均枝肉重量の増加が要因とみられる。これを踏まえUSDAは、24年の牛肉生産量予測を前月から6万4000トン上方修正し、1194万1000トン（前年比2.4%減）とした。

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
注：枝肉重量ベース。

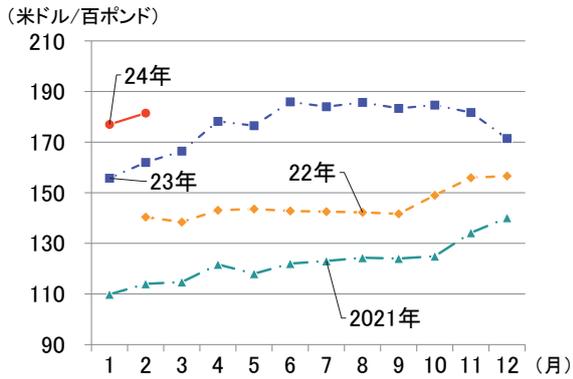
また、同月のフィードロット導入頭数は189万頭（前年同月比9.7%増）とかなりの程度増加し、出荷頭数も179万3000頭（同3.4%増）とやや増加した。この結果、24年3月1日時点のフィードロット飼養頭数は1183万8000頭（同1.3%増）とわずかに増加した。

24年2月の肥育牛価格、前年同月比12.0%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年2月の肥育牛価格は100ポンド当たり181.5米ドル（1キログラム当たり610円：1米ドル＝152.41円^注）、前年同月比12.0%高とかなり大きく上昇した（図2）。今後の価格見通しについてUSDAは、堅調な需要と肥育牛供給頭数の減少から、24年を通じて上昇傾向が続くと見込んでいる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]
 注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
 注2：2022年1月の値は、N/A値。

24年1月の牛肉輸出量は前年同月比4.1%減、輸入量は同38.1%増

USDA/ERSによると、2024年1月の牛肉輸出量は10万5493トン（前年同月比4.1%減）とやや減少した（表1）。豪州産との競合や、アジア地域からの需要減が要因

とみられる。輸出先別に見ると、日本向けは2万5296トン（同11.3%減）、続く韓国向けは2万3156トン（同2.5%減）、中国向けは1万4360トン（同12.2%減）といずれも減少した。一方、メキシコ向けは堅調な需要に加え、通貨が米ドルに対しペソ高で推移していることから1万4104トン（同17.2%増）と大幅に増加した。

同月の牛肉輸入量は、国内生産量が減少する中、堅調な需要を背景に22万8445トン（同38.1%増）と大幅に増加した（表2）。USDAによると、月間の牛肉輸入量としては過去最高を記録したとされる。輸入先別に見ると、最大の輸入先であるブラジルは低関税枠の早期消化を進めたたことで7万501トン（同48.3%増）、また、牛肉生産が好調な豪州は4万3786トン（約2.3倍）といずれも大幅に増加した。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)	輸出割合
日本	28,507	25,296	▲11.3%	24.0%
韓国	23,745	23,156	▲2.5%	22.0%
中国	16,359	14,360	▲12.2%	13.6%
メキシコ	12,034	14,104	17.2%	13.4%
カナダ	9,020	8,578	▲4.9%	8.1%
台湾	6,386	4,582	▲28.2%	4.3%
香港	2,000	3,229	61.4%	3.1%
その他	12,000	12,187	1.6%	11.6%
合計	110,050	105,493	▲4.1%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
 注：枝肉重量ベース。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)	輸入割合
ブラジル	47,525	70,501	48.3%	30.9%
豪州	19,182	43,786	128.3% (約2.3倍)	19.2%
カナダ	38,358	41,666	8.6%	18.2%
ニュージーランド	17,786	28,755	61.7%	12.6%
メキシコ	25,553	21,799	▲14.7%	9.5%
その他	17,002	21,937	29.0%	9.6%
合計	165,407	228,445	38.1%	100.0%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

カナダ

23年の牛肉輸出量は前年比2.4%減、24年も減少の見込み

24年1月の牛総飼養頭数は前年比2.1%減

カナダ統計局 (Statistics Canada) によると、2024年1月1日時点の牛の総飼養頭数は1106万頭 (前年同月比2.1%減) とわ

ずかに減少した (表1)。西部の主要肉牛生産地域を中心とした干ばつの影響により、総飼養頭数は1989年以来の最低水準となっている。内訳を見ると、繁殖雌牛 (肉用牛) が同2.4%減、未経産牛 (肉用牛) が同5.6%減となり、乳用牛に比べて肉用牛頭数の減少

表1 牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	11,515	11,295	11,055	▲2.1%
繁殖雌牛	4,622	4,513	4,428	▲1.9%
肉用牛	3,653	3,548	3,465	▲2.4%
乳用牛	969	965	964	▲0.1%
未経産牛	1,720	1,701	1,663	▲2.2%
肉用後継牛	576	551	520	▲5.6%
乳用後継牛	413	410	408	▲0.5%
その他	731	740	735	▲0.7%
去勢牛	1,209	1,234	1,232	▲0.2%
種雄牛	213	211	207	▲1.8%
子牛	3,751	3,637	3,526	▲3.0%

資料：Statistics Canada

注：各年1月1日時点。

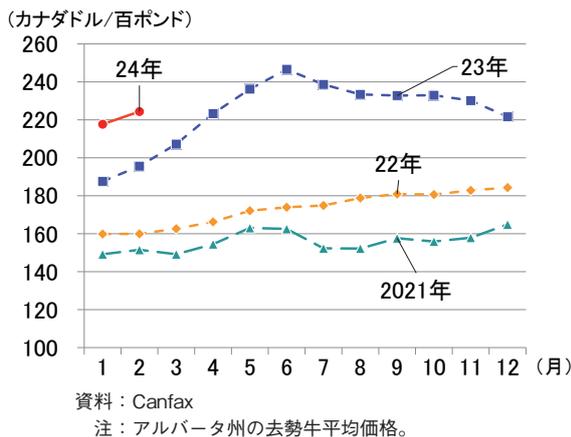
が顕著になっている。また、子牛も同3.0%減となっていることから、短期的な増頭は見込めず、牛肉生産への影響が長期化すると予測される。

米国農務省海外局（USDA/FAS）によると、23年（1～12月）の牛と畜頭数は358万頭（同4.0%減）となり、同年の牛肉生産量は134万トン（同5.1%減）とやや減少した。24年の牛肉生産量についてUSDA/FASは、今後も飼養頭数の減少が見込まれる中で、同4.9%減の127万5000トンと予測している。

24年2月の肥育牛価格、前年同月比14.7%高

CanFax^(注1)によると、2024年2月の肥育牛価格は、100ポンド当たり224.39カナダドル（1キログラム当たり561円：1カナダドル＝113.41円^(注2)、前年同月比14.7%高）とかなり大きく上昇した（図）。

図 肥育牛価格の推移



北米での堅調な牛肉需要と肥育牛供給の減少を背景に、肥育牛価格は引き続き高水準で推移している。

(注1) カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市況分析部門。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

23年の牛肉輸出量、前年比2.4%減

カナダ農業・農産食料省（AAFC）によると、2023年（1～12月）の牛肉輸出量は49万8917トン（前年比2.4%減）とわずかに減少した（表2）。一方、輸出額は、50億2233万カナダドル（5695億8222万円、同7.4%増）とかなりの程度増加した。主要輸出先別に見ると、最大の輸出先である米国向けは、37万5177トン（同3.9%増）とやや増加した。また、輸出先第3位のメキシコ向けは堅調な需要とペソ高の為替相場を背景に、3万2312トン（同21.8%増）と大幅に増加した。一方、アジア諸国向けについては、需要の減少から日本向けは4万5374トン（同33.1%減）、韓国向けは1万4220トン（同25.0%減）、ベトナム向けは1万2241トン（同22.3%減）とそれぞれ大幅に減少した。なお、中国向けは、21年末のカナダ国内での非定型BSEの報告以降、輸出停止が続いている。

24年の牛肉輸出量についてUSDA/FASは、生産量の減少が見込まれる中で、前年をやや下回ると予測している。

表2 牛肉輸出量および輸出額の推移

区分	2022年		23年		前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千カナダドル）	輸出量 （トン）	シェア	輸出額 （千カナダドル）	輸出量	輸出額
米国	361,050	3,451,364	375,177	75.2%	4,036,622	3.9%	17.0%
日本	67,793	518,289	45,374	9.1%	351,834	▲ 33.1%	▲ 32.1%
メキシコ	26,521	214,734	32,312	6.5%	283,780	21.8%	32.2%
韓国	18,963	192,406	14,220	2.9%	121,822	▲ 25.0%	▲ 36.7%
ベトナム	15,753	129,504	12,241	2.5%	78,960	▲ 22.3%	▲ 39.0%
香港	4,764	51,134	5,601	1.1%	60,447	17.6%	18.2%
フィリピン	2,868	13,211	1,796	0.4%	6,944	▲ 37.4%	▲ 47.4%
ペルー	1,036	1,947	1,460	0.3%	2,718	40.9%	39.6%
サウジアラビア	2,108	40,712	1,257	0.3%	12,464	▲ 40.4%	▲ 69.4%
その他	10,165	63,657	9,479	1.9%	66,737	▲ 6.7%	4.8%
合計	511,021	4,676,958	498,917	100.0%	5,022,328	▲ 2.4%	7.4%

資料：AAFC [Beef Supply at a Glance]

注1：船積み重量ベース。

注2：子牛の肉も含む。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

豪州

24年2月の牛肉輸出、日本が最大の輸出先

牛飼養頭数は維持または減少、牛肉輸出量は増加の見込み

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）は2024年2月末、最新の牛肉生産量などの見通しとなる「Industry projections 2024」を公表した（表1）。MLAは将来の気象変動、金利、為替、生産コスト、国内外のインフレ率などに関するさまざまな仮定を基に、本見通しを作成している。

これによると、23年の牛飼養頭数は過去最大規模の2870万頭に達した。しかし、24年は2859万頭（前年比0.4%減）とわずかな減少が予測されており、その後も減少傾向を維持し、26年には2675万頭（23年比

6.8%減）とされている。これに関してMLAは、豪州南部は牛群再構築後の安定的な出荷から、牛群の規模縮小が見込まれるとしている。一方、北部は今後一定の降雨が予想されることから、牛群の規模は維持されるとしている。また、1頭当たり枝肉重量は、成牛の出荷が早まることで減少するものの、遺伝的選抜の取り組みなどにより高い水準を維持するとしている。これにより牛肉生産量は23年の221万1000トンから24年は245万トン、26年には255万8000トンまで増加し、牛肉輸出量も連動して23年の108万2000トンから24年は122万2000トン、26年には129万5000トンと増加を予測している。

表1 牛肉生産量などの見通し

項目	2022年	23年	前年比 (増減率)	24年	25年	26年
				(今回予測値)	(今回予測値)	(今回予測値)
牛飼養頭数(千頭)	27,583	28,700	4.0%	28,585	27,370	26,750
成牛と畜頭数(千頭)	5,850	7,029	20.2%	7,854	8,274	8,250
牛肉生産量(千トン)	1,869	2,211	18.3%	2,450	2,557	2,558
1頭当たり枝肉重量(キログラム)	320.0	314.6	▲1.7%	312.0	309.0	310.0
牛肉輸出量(千トン)	855	1,082	26.5%	1,222	1,297	1,295
生体牛輸出(千頭)	600	674	12.3%	723	758	810

資料：MLA「Industry projections 2024」

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。牛肉輸出量は船積重量ベース。

注2：子牛および子牛肉を除く。

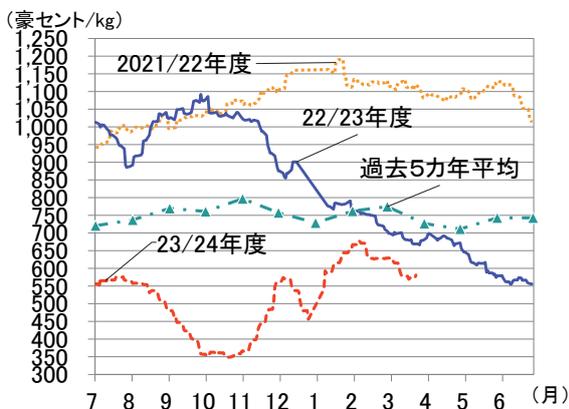
注3：2023年は概算値。24年以降は予測値。

24年3月の肉牛価格、需給緩和で下落傾向

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標(EYCI)価格は、2024年3月に入りおおむね下落傾向で推移しており、直近3月27日は1キログラム当たり597豪セント(601円:1豪ドル=100.61円^(注))となった(図1)。MLAによると、家畜市場への牛の出荷頭数が増加している中で、最近の降雨量の減少から、牧草肥育農家からの需要が鈍化している影響とされている。

(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

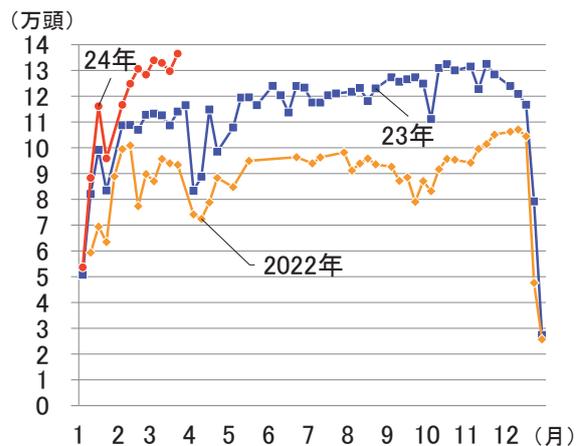
注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標(EYCI)価格は、東部3州(クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州)の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

24年3月第4週の成牛と畜頭数、13万頭を超える高水準で推移

週間成牛と畜頭数は、牛の出荷頭数増や食肉処理施設における稼働率上昇などを背景に、2024年3月に入り13万頭を超える水準で推移し、同月第4週の成牛と畜頭数は、13万6503頭(前年同月同週比19.7%増)となった(図2)。これは、先の干ばつによる牛群淘汰^{とつた}でと畜頭数が特に多かった20年5月以来の高水準となる。

図2 成牛と畜頭数の推移(週間報告)



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ(子牛は含まない)。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

24年2月の牛肉輸出量、日本向けが1年ぶりに最大輸出先に

成牛と畜頭数の増加を背景に、牛肉輸出量も堅調に増加している。豪州農林水産省(DAFF)によると、2024年2月の牛肉輸出量は9万3834トン(前年同月比33.3%増)と大幅に増加した(表2)。

米国内の牛肉生産量の減少を背景に、最近

は米国向けが最大の輸出先となっていたが、24年2月は日本向けが2万3794トン(同42.8%増)と大幅に増加し、1年ぶりに最大の輸出先となった。この要因としてMLAは、日本の食肉在庫量が同年1月時点で同13.8%減少したことを挙げているが、これはインバウンド需要の増加などによる消費の促進が背景にある。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位: トン)

	2023年 2月	24年 2月	前年同月比 (増減率)	24年 (1~2月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
日本	16,657	23,794	42.8%	40,126	40.2%
米国	11,693	21,341	82.5%	41,649	101.7%
中国	12,528	15,757	25.8%	29,857	29.3%
韓国	13,342	13,869	4.0%	25,551	8.9%
東南アジア	9,327	7,476	▲19.8%	12,562	▲8.7%
中東	1,914	2,779	45.2%	4,991	34.5%
E U	477	1,084	127.4%	1,862	83.1%
その他	4,441	7,734	74.1%	12,821	69.6%
輸出量合計	70,379	93,834	33.3%	169,419	39.0%

資料: DAFF

注1: 船積重量ベース。

注2: 東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3: 中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦(七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ))。

(調査情報部 国際調査グループ)

ウルグアイ

23年の牛と畜頭数、牛肉輸出量ともに2年連続の減少

23年の牛と畜頭数は前年比4.3%減

ウルグアイ食肉協会(INAC)によると、2023年の牛と畜頭数は230万6000頭(前年比4.3%減)と前年をやや下回り2年連続で減少した(図1)。23年前半(1~6月)の

牛と畜頭数は、前年同期のと畜が堅調な海外需要を背景に高水準であったことからこれを大きく下回ったが、後半(7~12月)になると、と畜頭数の回復などから年間の減少幅が縮小した。24年1月の牛と畜頭数は、降雨による牧草の生育状況の改善や生産者出荷

価格の回復などから19万6000頭（前年同月比30.2%増）となり、低水準であった前年同月を大幅に上回った。

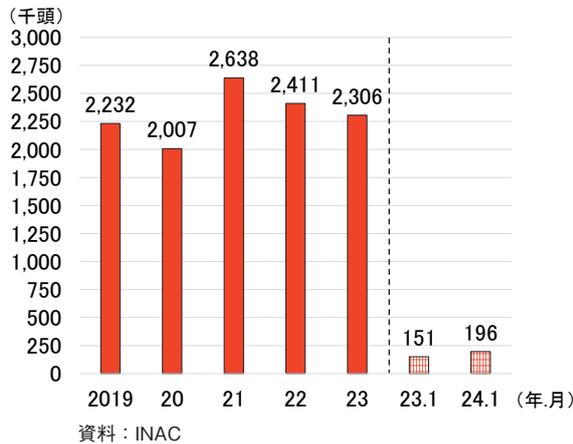
定されていた同宣言は延長され、24年1月まで継続した。

23年の牛肉輸出量は中国向けを中心に減少し、前年比5.5%減

ウルグアイ中央銀行によると、2023年の牛肉輸出量は36万80トン（前年比5.5%減）と前年をやや下回り、2年連続で減少した（表）。また、平均輸出単価は、1トン当たり5612米ドル（85万5325円：1米ドル＝152.41円^注、前年比16.1%安）と前年から大幅に下落した。これは、中国の需要低迷や米ドルに対するウルグアイペソ高などが影響したとみられる。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは21万6014トン（同16.3%減）と前年を大幅に下回り、全体の輸出量に占める割合は前年の67.7%から60.0%に低下した。また、同国向け平均輸出単価は、同4530米ドル（69万417円、同20.8%安）と前年を大幅に下回った。これは、中国からの引き合いが弱いことやブラジルとの競合などによるもので

図1 牛と畜頭数の推移



ウルグアイは近年、ラニーニャ現象の影響により乾燥気候となり、22年10月～23年2月は特に乾燥の状況が厳しく、水不足などによる肉牛生産への影響が生じた。このため、同国農牧水産省は22年10月、農業緊急事態を宣言し、生産者に対して飼料や水不足対策などの支援措置を講じた。当初、90日間予

表 牛肉輸出の推移

区分	2022年			23年			前年比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	257,982	1,476,580	5,724	216,014	978,649	4,530	▲ 16.3%	▲ 33.7%	▲ 20.8%
米国	41,246	310,440	7,527	54,034	340,829	6,308	▲ 31.0%	▲ 9.8%	▲ 16.2%
オランダ	16,916	194,522	11,499	15,953	171,316	10,739	▲ 5.7%	▲ 11.9%	▲ 6.6%
カナダ	8,489	46,462	5,473	13,573	60,943	4,490	▲ 59.9%	▲ 31.2%	▲ 18.0%
イスラエル	9,741	82,052	8,423	7,444	55,086	7,400	▲ 23.6%	▲ 32.9%	▲ 12.1%
チリ	6,107	48,542	7,949	6,723	54,057	8,041	▲ 10.1%	▲ 11.4%	▲ 1.2%
ブラジル	6,868	67,863	9,881	6,425	58,267	9,069	▲ 6.5%	▲ 14.1%	▲ 8.2%
イタリア	5,187	43,014	8,293	5,955	46,085	7,739	▲ 14.8%	▲ 7.1%	▲ 6.7%
日本	5,852	47,138	8,055	5,178	35,258	6,809	▲ 11.5%	▲ 25.2%	▲ 15.5%
その他	22,715	234,097	10,306	28,781	220,452	7,660	▲ 26.7%	▲ 5.8%	▲ 25.7%
合計	381,103	2,550,711	6,693	360,080	2,020,942	5,612	▲ 5.5%	▲ 20.8%	▲ 16.1%

資料：ウルグアイ中央銀行
注1：HSコード0201、0202の合計。
注2：製品重量ベース。

ある。一方、米国、カナダ、メキシコといった北米向けが大幅に増加し、輸出量全体の落ち込みを一部相殺した。また、冷蔵品が中心の日本向けは5178トン（同11.5%減）と2年連続で前年を下回った。なお、イスラエル向けについては24年1月8日、これまでの骨なし牛肉に加え、骨付き牛肉の輸出が認められた。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

去勢牛生産者出荷価格、23年11月ごろから緩やかな回復傾向で推移

INACによると、直近（2024年3月第2週）の去勢牛生産者出荷価格は、前年同月同週比10.5%安の1キログラム当たり3.76米ドル（573円）となった（図2）。最近の価格の推移を見ると、中国の需要低迷などにより

23年5～10月は下落傾向で推移した。23年11月ごろから中国向け輸出量が回復基調に転じる一方、牧草の生育状況が改善し、生産者による牛の保留傾向が高まったことなどから牛の需給がひっ迫基調で推移した。このため、去勢牛生産者出荷価格は緩やかな回復傾向にある。

図2 去勢牛生産者出荷価格の推移



(調査情報部 井田 俊二)

豚 肉

E U

23年の豚肉生産量は過去10年で最低、枝肉価格は高値で推移

23年12月の豚肉生産量、前年同月比6.0%減

欧州委員会によると、2023年12月の豚肉生産量（EU27カ国）は、170万トン（前年同月比6.0%減）とかなりの程度減少した（図1）。同月の1頭当たり枝肉重量は93.7キログラム（同0.6%減）とわずかに減少したが、と畜頭数が1812万頭（同9.5%減）とかなりの程度減少したことが影響した。ま

た、23年累計（1～12月）の豚肉生産量も2060万トン（前年比6.7%減）と過去10年で最低となった。これは、環境やアニマルウェルフェアに関する厳しい規制、EU域内での継続的なアフリカ豚熱（ASF）の発生、輸出需要の減退によるものである。

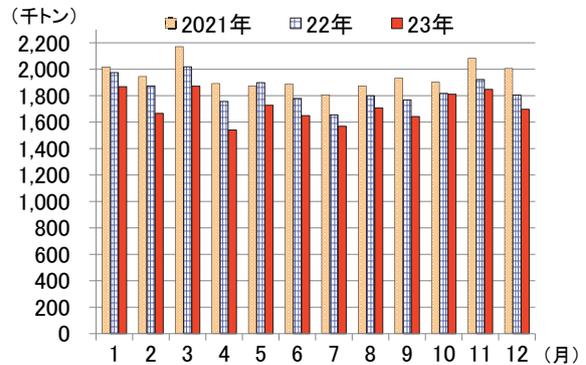
一方、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の分析によると、24年の豚肉生産量は前年比で2.1%増加すると予測されている。これは、（1）23年12月の母豚頭数が

前年同月比17万8000頭増になったこと（2）記録的な子豚価格と枝肉価格の上昇に加えて、飼料価格の下落から養豚生産者の収益性が改善されるため、豚飼養頭数の増加が見込まれること一によるものである。

23年の生産量を主要生産国別に見ると、すべての主要生産国で前年比減となった（表1）。しかし、ASFの発生から回復基調にあるポーランド（前年比1.7%減）やイタリア（同2.7%減）では母豚数が増加するなど、特に下半期（7～12月）は前年同期比増に転じている。一方、生産量に対して輸出の割合が高いデンマークでは、国内と畜場の閉鎖や再編などによる生産能力の減少や輸出需要

の減少の影響を受け、大幅な減産（同19.9%減）となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

	2022年 12月	23年 12月	前年同月比 (増減率)	23年 (1～12月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	426	391	▲ 8.3%	4,852	▲ 4.2%
ドイツ	367	339	▲ 7.6%	4,180	▲ 6.8%
フランス	183	165	▲ 10.0%	2,062	▲ 4.2%
ポーランド	148	159	7.2%	1,765	▲ 1.7%
オランダ	128	113	▲ 11.6%	1,463	▲ 13.1%
デンマーク	110	103	▲ 5.8%	1,288	▲ 19.9%
イタリア	94	100	6.4%	1,206	▲ 2.7%
その他	348	326	▲ 6.3%	3,780	▲ 6.3%
合計	1,805	1,697	▲ 6.0%	20,596	▲ 6.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

24年2月の豚枝肉卸売価格、前年同月比安も高値を維持

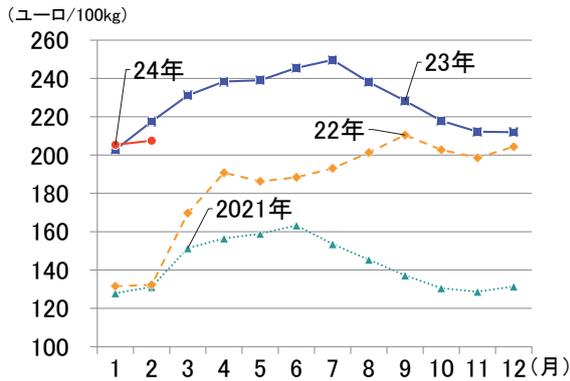
欧州委員会によると、2024年2月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比4.6%安の100キログラム当たり207.52ユーロ（3万4187円：1ユーロ＝164.74円^(注)）となり、21年11月以来2年3カ月ぶ

りに前年同月を下回った（図2）。ただし、域内の豚肉生産量の減少により供給量が限られる中で、夏場の需要に向けた豚肉在庫の積み増しを図る動きから、同価格は前月比で1.1%上回った。週別の価格動向を見ると、12月から翌1月にかけて下落したものの、2月からは7週連続で上昇しており、直近3月18日の週は前週から0.66ユーロ（108.73

円) 高の同218.13ユーロ (3万5935円) となった。現地報道によると、同価格は上昇基調が見込まれるものの、豚肉生産量の回復につれて市況は落ち着くとされている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU (CLASS E) 平均価格。

23年の豚肉輸出量、大幅に減少

欧州委員会によると、2023年のEU域外への豚肉輸出量 (EU27カ国) は、210万2797トン (前年比28.0%減) と大幅に減少した (表2)。域内生産量の減少による価格の上昇によりEU産豚肉の価格競争力が低下したことやASF発生による輸出停滞、アジア諸国を中心とした需要減などにより輸出量が減少した。

主要豚肉輸出先別に見ると、スペイン、デンマークともにASFの発生や生産コストの上昇により豚肉生産量が減少しているマレーシア向けが増加し、デンマークは、豚肉生産量の減少が続く英国向けが増加したものの、両国とも豚肉輸出量は大幅に減少した。

USDA/FASの分析によると、24年のEUの豚肉輸出量は、域内の豚肉生産量の増加見込みから、わずかな増加と予測されている。

表2 域外向け豚肉輸出量 (2023年)

(単位：トン)

EU27カ国		前年比 (増減率)	スペイン		前年比 (増減率)	デンマーク		前年比 (増減率)
中国	574,429	▲ 37.5%	中国	294,884	▲ 32.1%	中国	71,830	▲ 65.9%
英国	347,103	10.6%	日本	166,685	▲ 15.1%	英国	71,318	4.4%
日本	292,598	▲ 22.8%	韓国	96,114	▲ 26.2%	日本	66,310	▲ 33.4%
韓国	192,890	▲ 23.6%	英国	43,999	▲ 2.6%	豪州	33,415	▲ 32.2%
フィリピン	110,940	▲ 44.5%	フィリピン	43,299	▲ 58.0%	米国	21,216	▲ 32.9%
豪州	66,842	▲ 44.4%	マレーシア	25,944	78.6%	マレーシア	12,853	148.2%
その他	517,995	▲ 29.4%	その他	114,243	▲ 31.6%	その他	54,348	▲ 36.5%
合計	2,102,797	▲ 28.0%	合計	785,168	▲ 28.0%	合計	331,290	▲ 39.8%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

(調査情報部 藤岡 洋太)

鶏肉

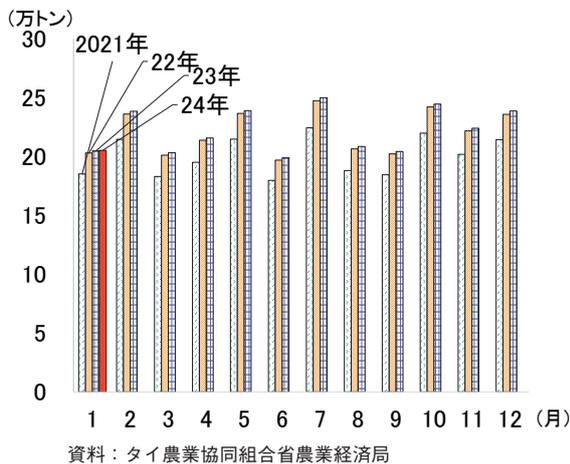
タイ

堅調な需要により23年の冷凍鶏肉輸出量は前年を上回る

23年の鶏肉生産量は前年比1.0%増

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2023年の鶏肉生産量は266万7491トン（前年比1.0%増）と前年をわずかに上回った。また、24年1月は20万5038トン（前年同月比0.2%増）と前年並みの開始になった（図1）。現地関係者によると、タイ国内の鶏肉需給はおおむね安定し、輸出需要が堅調にある中で、生産費高騰を背景とした大手生産者による減産が23年12月ごろに落ち着いたことが要因とされている。

図1 鶏肉生産量の推移



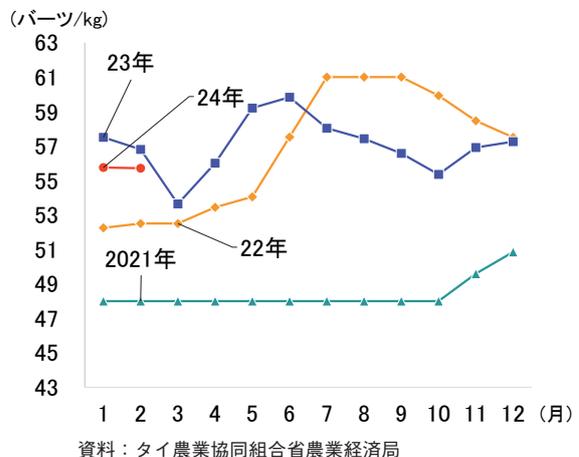
24年2月の鶏肉卸売価格は高値で推移した前年を下回る

2024年2月の鶏肉卸売価格は、前年同月比1.9%安の1キログラム当たり55.8バーツ（237円：1バーツ＝4.24円^(注)）となった

（図2）。現地関係者によると、同月の鶏肉卸売価格は生産費高騰から高値で推移した前年水準を下回っているものの、アジア地域を中心とした堅調な輸出需要にけん引され、3月は上昇に転じるとみられている。ただし、主要輸出先であるアジア向け、欧州向けともに輸出先からの値下げ要請が強く、生産費の高止まりに加えて特に欧州向けは輸送費の上昇も影響する中で、今後の価格交渉は一段と難しい状況になりつつあるとされている。タイ荷主協議会によると、スエズ運河を利用する紅海での船舶攻撃への影響から、多くの船舶がアフリカの喜望峰を迂回する航路に変更したことで、欧州向けの海上輸送コストが大幅に上昇しているとされている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



23年の冷凍鶏肉輸出量は前年を大幅に上回る

2023年の冷凍鶏肉輸出量は、47万1610トン（前年比35.1%増）と前年から大幅に増加した（表1）。

現地関係者によると、高病原性鳥インフルエンザが確認された中国や関税引き下げを

行っている韓国向けの伸びに加え、インフレ対策として23年10月まで鶏肉の価格統制を実施していたマレーシア向けも堅調であったとされている。また、動物性タンパク質の中で比較的手頃な鶏肉の需要は安定しており、価格交渉などの課題を抱えつつも、国内企業の中には2カ月先の生産分まで販売先が決まっている企業もあるとされている。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)	24年	
						(1月)	前年同月比 (増減率)
日本	12.8	14.3	13.6	16.6	22.3%	1.5	10.6%
中国	11.5	10.4	8.5	11.5	35.0%	1.0	▲0.9%
マレーシア	4.1	4.7	7.2	9.1	25.9%	0.7	25.9%
香港	0.9	1.0	1.0	3.6	241.8%	0.1	13.2%
韓国	0.8	1.3	1.2	3.2	160.6%	0.3	106.7%
その他	3.3	3.2	3.3	3.2	▲3.2%	0.3	60.7%
合計	33.3	34.9	34.9	47.2	35.1%	3.9	17.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

23年の鶏肉調製品の輸出量は前年を下回る

2023年の鶏肉調製品輸出量は、59万5651トン（前年比8.6%減）と前年をかなりの程度下回った（表2）。このうち、日本向けは28万5981トン（同7.9%減）と前年をかなりの程度下回り、欧州（英国およびオ

ランダ）向けも前年を下回っている。現地関係者によると、日本向け鶏肉調製品の需要は回復傾向にあるとみているものの、現地企業では続騰する製造コストの圧縮策として、タイ国内での加工処理を回避する動きが見られ、鶏肉調製品から冷凍鶏肉での輸出にシフトする傾向にあるとしている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	前年比 (増減率)	24年	
						(1月)	前年同月比 (増減率)
日本	29.2	28.8	31.1	28.6	▲7.9%	2.4	4.7%
英国	14.2	13.6	17.3	16.1	▲7.0%	1.6	25.1%
オランダ	2.8	3.9	5.6	4.1	▲27.7%	0.4	16.9%
韓国	2.4	2.1	3.1	2.9	▲7.4%	0.2	▲19.2%
その他	6.1	6.7	8.1	8.0	▲1.9%	0.8	35.0%
合計	54.6	55.0	65.2	59.6	▲8.6%	5.3	13.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部 海老沼 一出）

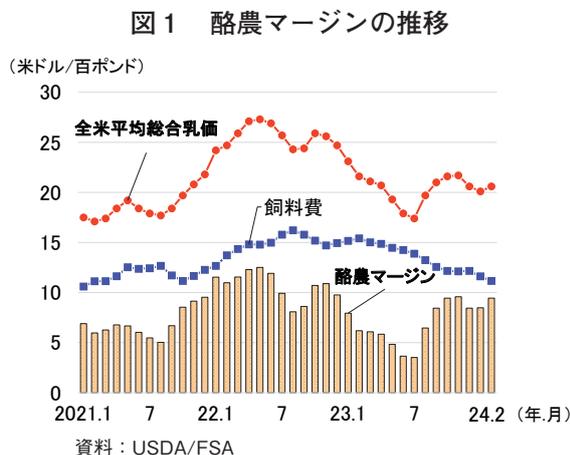
牛乳・乳製品

米 国

乳価上昇、飼料費下落で、酪農マージンは拡大

24年2月の乳価、前年同月比安も3カ月ぶりの上昇

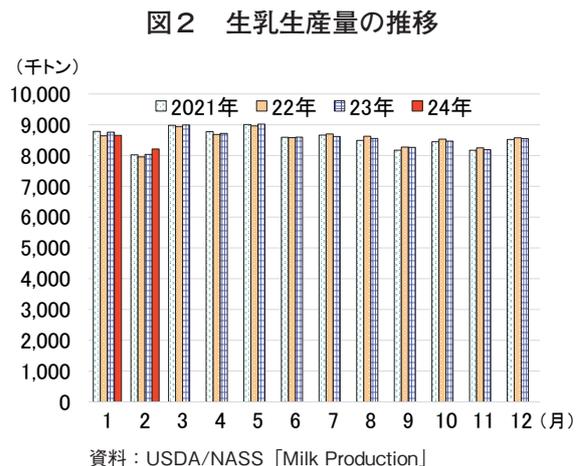
米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2024年2月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり20.6米ドル（1キログラム当たり69円：1米ドル＝152.41円^{（注1）}、前年同月比4.6%安）とやや下回ったが、前月比では3カ月ぶりの上昇に転じた（図1）。また、同月の酪農マージン^{（注2）}は、乳価の上昇と飼料費の下落により、同9.44米ドル（同32円、同52.5%増）と大幅に増加した。23年8月以降、乳価がおおむね上昇基調にある中で、トウモロコシや大豆かすなどの飼料費が下落していることから、酪農マージンは堅調に推移している。USDAによると、収益性の改善から24年下半期（7～12月）の乳牛飼養頭数は拡大すると予測されている。



（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2024年3月末TTS相場。
（注2）酪農家のセーフティネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

24年2月の生乳生産量、前年同月比2.2%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年2月の乳用経産牛飼養頭数は933万頭（前年同月比0.9%減）とわずかに減少した。一方、同月の生乳生産量は、1頭当たりの乳量の増加（同3.1%増）で821万2000トン（同2.2%増）とわずかに増加した（図2）。



24年1月の乳製品輸出量、脱脂粉乳が大幅減もチーズは好調

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年1月の乳製品輸出量は乳脂

肪分ベースで前年同月比5.2%減、無脂肪ベースで同5.4%減とそれぞれやや減少した。品目別に見ると、脱脂粉乳がメキシコや東南アジア諸国からの需要減により、5万8600トン（前年同月比14.0%減）とかなり大きく減少した（表）。一方、チーズはメキシコや中南米地域からの需要増により、3万8300トン（同12.7%増）とかなり大きく増加した。米国乳製品輸出協会（USDEC）

によると、主要輸出先での堅調なピザ消費などが、主要輸出製品であるシュレットチーズなどの輸出を伸ばす要因とされている。そのほか、日本や中国といったアジア諸国からの需要増などにより、ホエイは1万3500トン（同2.7%増）とわずかに、WPC（タンパク質濃縮ホエイパウダー）は1万1600トン（同3.9%増）とやや増加した。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	68.2	58.6	▲14.0%
チーズ	34.0	38.3	12.7%
乳糖	35.3	35.0	▲0.9%
ホエイ	13.2	13.5	2.7%
WPC	11.2	11.6	3.9%
バター	3.4	2.3	▲33.4%

資料：USDA/ERS [Dairy Data]
注：製品重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

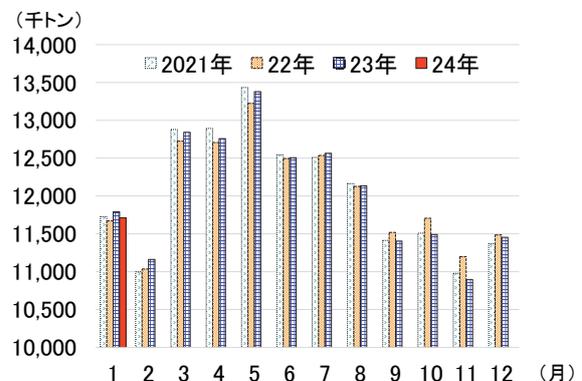
E U

24年2月の生乳取引価格、5カ月ぶりに前月を下回る

24年1月の生乳出荷量、前年同月をわずかに下回る

欧州委員会によると、2024年1月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1171万2000トン（前年同月比0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（図1、表1）。主要生産国別に見ると、ポーランド（同2.8%増）、イタリア（同2.0%増）、スペイン（同1.2%増）、ベルギー（同1.9%増）およびオーストリア（同2.6%増）は前年同月を上回った。フランス（同0.3%減）は前年同月並みとなった

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

一方、ドイツ（同2.0%減）およびオランダ（同3.0%減）は前年同月を下回り、アイルランド（同22.4%減）は前年同月を大幅に下回った。季節生産型の同国では、通常、冬場である1月の生乳生産量は少ないが、生乳

取引価格を上回る生産コストや硝酸塩に係る規制^(注1)などが生乳生産量の減少につながったとみられる。

(注1) アイルランドでは、硝酸塩指令による家畜排せつ物由来の窒素施用量の上限が従来の1ヘクタール当たり年間250キログラムから、一部地域で2024年1月に同220キログラムに引き下げられた。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2023年 1月	24年 1月	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,774	2,719	▲ 2.0%
フランス	2,055	2,049	▲ 0.3%
オランダ	1,212	1,176	▲ 3.0%
ポーランド	1,096	1,126	2.8%
イタリア	1,057	1,078	2.0%
スペイン	622	629	1.2%
デンマーク	482	472	▲ 2.2%
ベルギー	395	402	1.9%
オーストリア	282	289	2.6%
アイルランド	186	144	▲ 22.4%
その他	1,632	1,627	▲ 0.3%
合計	11,792	11,712	▲ 0.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

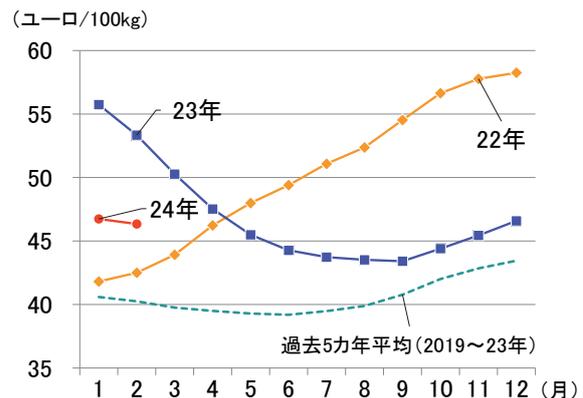
24年2月の生乳取引価格、5カ月ぶりに前月を下回る

欧州委員会によると、2024年2月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり46.34ユーロ（7634円：1ユーロ＝164.74円^(注2)、前年同月比13.1%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図2）。また、前月比では0.9%安となり、5カ月ぶりに前月を下回った。

現地報道によると、2月以降はイースター前の生乳需要が高まる時期であることや、近年頻発している干ばつによる生乳減産の可能性から、生乳取引価格の下降は継続しないとみられている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

23年末の乳用経産牛飼養頭数、8年連続で前年比減

欧州委員会によると、2023年12月時点の乳用経産牛飼養頭数（EU27カ国）は、1973万5350頭（前年比1.7%減）と8年連続で前年を下回り、統計開始以来、初めて2000万頭を割り込んだ（表2）。主要生産国別に見ると、ポーランドとアイルランドを除いて軒並み前年を下回り、多くの国では22年に比べて減少率が拡大した。ポーラン

ドは、飼養頭数が前年をわずかに上回り（同1.5%増）、1頭当たりの乳量^{（注3）}が6294キログラム（同0.3%増）と前年並みを維持したことから生乳出荷量を伸ばした。また、ドイツおよびオランダは、飼養頭数が減少する中で、1頭当たりの乳量が増加（ドイツは8733キログラム（同4.1%増）、オランダは8987キログラム（同2.5%増））したことから、生乳出荷量を維持している。

（注3）生乳出荷量を飼養頭数で除して求めたもの。

表2 主要生産国別乳用経産牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

	2021年	22年	23年	前年比 （増減率）
ドイツ	3,833	3,810	3,713	▲ 2.5%
フランス	3,322	3,231	3,165	▲ 2.1%
ポーランド	2,035	2,037	2,069	1.5%
イタリア	1,844	1,865	1,808	▲ 3.1%
オランダ	1,554	1,570	1,546	▲ 1.5%
アイルランド	1,505	1,510	1,511	0.0%
ルーマニア	1,082	1,076	1,067	▲ 0.8%
スペイン	809	810	786	▲ 3.0%
デンマーク	559	556	547	▲ 1.6%
その他	3,669	3,609	3,525	▲ 2.3%
合計	20,213	20,074	19,735	▲ 1.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：2023年は速報値。

注2：各年12月時点。

（調査情報部 渡辺 淳一）

N Z

24年2月の生乳生産量、乳製品輸出量ともに前年同月を上回る

24年2月の生乳生産量、温暖な湿潤気候などからやや増加

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年2月の生乳生産量は191万

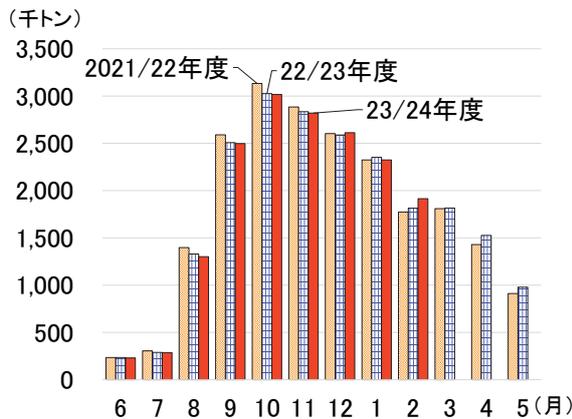
4000トン（前年同月比5.5%増）とやや増加した（図1）。この結果、23/24年度（6月～翌5月）同月までの累計では、1700万トン（前年同期比0.2%増）と前年同期並みの水準まで回復している。この要因について

ニュージーランド証券取引所（NZX）は、平年よりも温暖かつ予想以上の湿潤気候により、土壌水分量が上昇したことで、牧草の生育状況が良好となったことを挙げている。また、今年はいずれも前年のため、同月の日数が例年よりも1日多かったことなども一因としている。

24年2月の乳製品輸出量、主要4品目すべてで前年同月を上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年2月の乳製品輸出量は、中国向け輸出の伸びなどから主要4品目すべてで前年同月を上回った（表、図2）。特に全粉乳については、中国向けが前年同月の2万4249トンから4万9092トンへと2倍以上増加したことで、全体でも大幅に増加した。これは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって需要が減少した前年同月からの反動や、両国間の自由貿易協定に基づき、同年1月1日から全粉乳に対する関税が撤廃^{（注1）}されたことなどが背景にあるとみられる。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

（注1）海外情報「中国向け乳製品、全品目の関税が撤廃（NZ）」
https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003696.html
 をご参照ください。

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年 2月	24年 2月	前年同月比 (増減率)	23/24年度 (7月～翌2月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	45,130	51,043	13.1%	310,581	12.1%
全粉乳	86,715	152,416	75.8%	962,692	11.9%
バターおよびバターオイル	33,974	38,517	13.4%	305,516	1.5%
チーズ	29,518	30,036	1.8%	236,206	1.7%

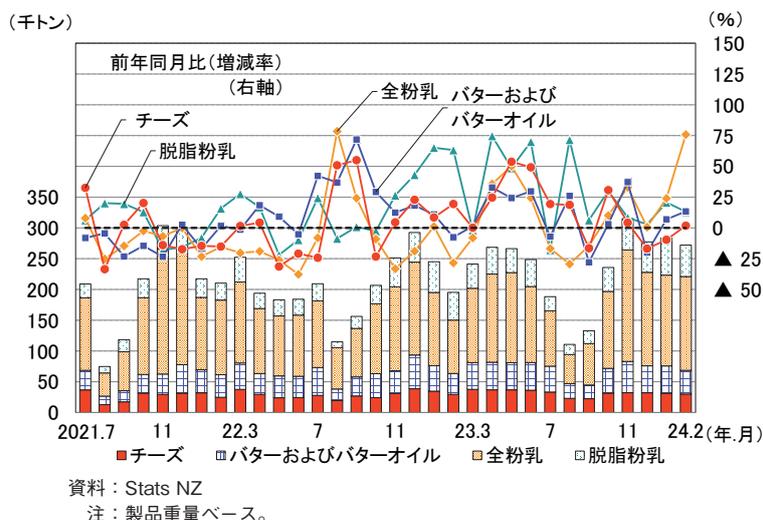
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



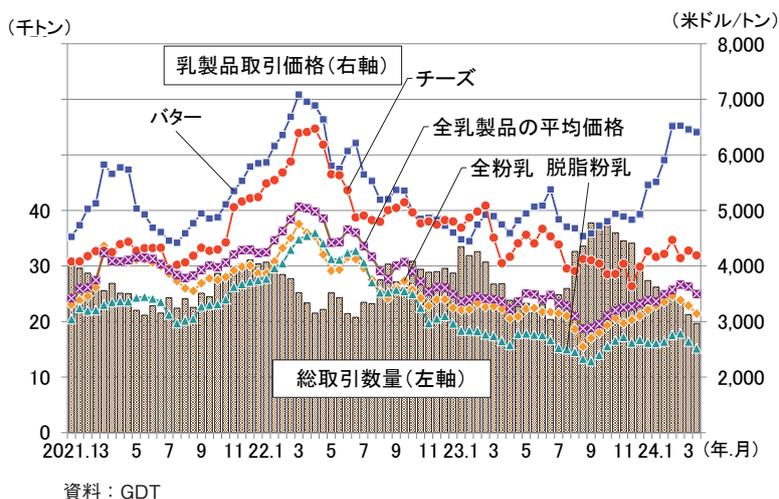
24年3月中旬のGDT平均価格、3.7%安に下落

2024年3月19日開催のGDT^(注2) 平均取引価格は、主要4品目すべてで前回開催時(同年3月5日)の価格を下回り、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3497米ドル(53万2978円：1米ドル＝152.41円^(注3)、前回比3.7%安)となった(図3)。特に脱脂粉乳は同2517米ドル(38万3616円、同

4.7%安)と主要4品目の中で最大の下げ幅を記録し、昨年9月以来の安値となった。今回の結果についてNZXは、北半球と南半球の生乳生産が重なる季節的な要因であるとし、生乳供給量の増加が価格決定の圧力になったと報告している。

(注2) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 工藤 理帆)

中国

生乳価格はさらに下落、乳製品輸入量も引き続き低迷

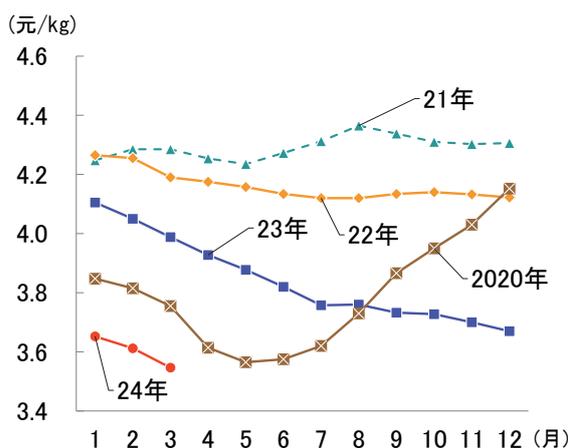
24年3月の生乳価格は前年同月比11.1%安

中国農業農村部によると、2024年3月の生乳価格は1キログラム当たり3.55元（75.01円：1元＝21.13円^{（注1）}、前年同月比11.1%安）と前年同月をかなり大きく下回った（図1）。生乳価格は23年1月以降、ほぼ一貫して下落基調にあり、3月の価格は、過去4年で最も安かった20年5月の同3.57元（75.43円）を下回った。

中国農業農村部が24年2月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年1月）」の中で、今後の生乳価格の見通しが示されている。これによると、国内の乳製品需要はやや回復傾向にあるものの、生乳生産量の増加^{（注2）}から需給は緩和しつつあり、乳製品在庫が積み上がる中で乳業からの引き合いが弱く、今後も低迷するとされている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。
（注2）『畜産の情報』2024年3月号「23年の生乳生産量は過去最高、乳製品輸入量は大幅減少」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003129.html）をご参照ください。

図1 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

24年の乳製品輸入量は引き続き低水準

2024年1～2月期の乳製品主要8品目の輸入量は、8品目中5品目で前年を大幅に下

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	64.4	84.9	70.1	43.1	11.0	15.4%	▲0.7%
脱脂粉乳	33.6	42.6	33.5	34.7	5.4	▲27.2%	▲43.7%
飲用乳	84.5	99.6	72.2	54.8	6.5	▲19.6%	▲21.9%
ヨーグルト	2.8	2.5	2.2	1.8	0.1	▲39.6%	▲17.1%
チーズ	12.9	17.6	14.5	17.8	2.6	0.7%	▲4.0%
バター	8.6	9.7	10.1	9.3	1.7	8.3%	9.4%
育児用調製粉乳	34.8	27.3	28.0	23.8	3.0	▲38.5%	▲27.9%
ホエイ	62.3	71.8	59.9	65.6	8.6	▲23.9%	▲39.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

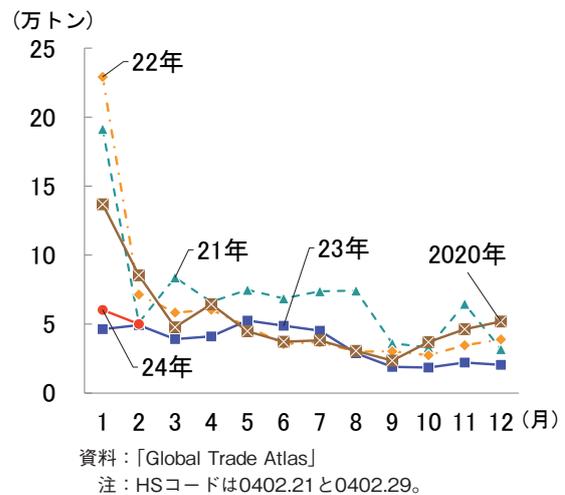
回った（表、図2）。一方、全粉乳は11.0万トン（前年同期比15.4%増）と前年同期をかなり大きく上回った。この要因について現地専門家からは、全粉乳の国内在庫は積み上がっているものの、23年末からGDT^(注3) 価格が上昇傾向にあり^(注4)、今後の価格上昇も見込まれたことで、乳業各社が春節前に原料の積み増しを行ったのではないかとの意見が聞かれた。

中国国内の乳製品需給が緩む中、豪州農業資源経済科学局（ABARES）は、24年3月に公表した「豪州農畜産業の2029年までの中期見通し」において、世界の乳製品需要は中国の輸入需要の増加にけん引され、中期的に増加すると予測している。この理由についてABARESは、（1）所得の向上などから中国の乳製品需要がさらに高まり、同国の生乳生産量の増加を上回るペースで乳製品消費が増加すること（2）中国国内の低い生乳価格

と高い生産コストにより、生産拡大に対する酪農家の投資意欲が低下し、生乳生産量の伸びが鈍化することを挙げている。

（注3）グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注4）『畜産の情報』2024年2月号「GDT価格が続伸、23/24年度生産者支払乳価は引き上げ」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003089.html）をご参照ください。

図2 全粉乳の輸入量の推移



（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

主要国のトウモロコシ生産量は据え置き、輸出増で期末在庫は微減も高水準維持

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は、2024年3月8日、2023/24年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の生産量は12億3024万トン（前年度比6.3%増）と前月から233万トン下方修正された。このうち、主要生産国である米国、中国およびブラジルはいずれも前月から据え置かれたが、単収の減少が見込まれる南アフリカ、また、収穫結果に基づくウクライナやロシアなどの減少分が反映された。

輸入量は、世界全体で1億8948万トン（同9.8%増）と前月から34万トン下方修正された。このうち、EUは前月から100万トン下方修正されたが、メキシコや南アフリカが上方修正されたことで、EUの減少分の一部が

相殺された。

消費量は、世界全体で12億1224万トン（同3.9%増）と前月から148万トン上方修正された。このうち、主要消費国である米国、中国は前月から据え置かれたが、ブラジルは100万トン上方修正、EUは100万トン下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億227万トン（同12.3%増）と前月から145万トン上方修正された。このうち、アルゼンチンは生産量の増加見込みを受けて前月から100万トン、ウクライナは輸出実績を踏まえて150万トンそれぞれ上方修正された。

この結果、期末在庫は3億1963万トン（同6.0%増）と前月から243万トン下方修正されたが、前年度からかなりの程度増加が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2024年3月8日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

区 分	2021/22 年度	22/23 年度 (推計値)	23/24年度			
			(2月予測)	(3月予測)	前年度比 (増減率)	
米 国	期首在庫	31.36	34.98	34.55	34.55	▲ 1.2%
	生産量	381.47	346.74	389.69	389.69	12.4%
	輸入量	0.62	0.98	0.64	0.64	▲ 34.7%
	消費量	315.67	305.95	316.37	316.37	3.4%
	輸出量	62.80	42.20	53.34	53.34	26.4%
	期末在庫	34.98	34.55	55.17	55.17	59.7%
ブラジル	期首在庫	4.15	3.97	10.27	11.47	2.6倍
	生産量	116.00	137.00	124.00	124.00	▲ 9.5%
	輸入量	2.60	1.30	1.20	1.20	▲ 7.7%
	消費量	70.50	76.50	77.50	78.50	2.6%
	輸出量	48.28	54.30	52.00	52.00	▲ 4.2%
	期末在庫	3.97	11.47	5.97	6.17	▲ 46.2%
アルゼンチン	期首在庫	1.18	1.80	1.11	1.11	▲ 38.3%
	生産量	49.50	36.00	55.00	56.00	55.6%
	輸入量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	14.20	11.70	14.10	14.10	20.5%
	輸出量	34.69	25.00	41.00	42.00	68.0%
	期末在庫	1.80	1.11	1.03	1.03	▲ 7.2%
ウクライナ	期首在庫	0.83	7.80	2.80	2.80	▲ 64.1%
	生産量	42.13	27.00	30.50	29.50	9.3%
	輸入量	0.02	0.02	0.02	0.02	0.0%
	消費量	8.20	4.90	5.00	5.00	2.0%
	輸出量	26.98	27.12	23.00	24.50	▲ 9.7%
	期末在庫	7.80	2.80	5.32	2.82	2.7倍
E U	期首在庫	7.83	11.39	7.23	7.23	▲ 36.5%
	生産量	71.55	52.40	60.10	60.10	14.7%
	輸入量	19.74	23.15	23.00	22.00	▲ 5.0%
	消費量	81.70	75.50	78.90	77.90	3.2%
	輸出量	6.03	4.21	4.20	4.20	▲ 0.2%
	期末在庫	11.39	7.23	7.23	7.23	0.0%
中 国	期首在庫	205.70	209.14	206.04	206.04	▲ 1.5%
	生産量	272.55	277.20	288.84	288.84	4.2%
	輸入量	21.88	18.71	23.00	23.00	22.9%
	消費量	291.00	299.00	306.00	306.00	2.3%
	輸出量	0.00	0.01	0.02	0.02	2.0倍
	期末在庫	209.14	206.04	211.86	211.86	2.8%
世界計	期首在庫	292.94	310.65	300.25	301.62	▲ 2.9%
	生産量	1215.97	1157.53	1232.57	1230.24	6.3%
	輸入量	184.45	172.58	189.82	189.48	9.8%
	消費量	1198.27	1166.56	1210.76	1212.24	3.9%
	輸出量	206.39	180.19	200.82	202.27	12.3%
	期末在庫	310.65	301.62	322.06	319.63	6.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 横田 徹)

消費や輸出の増加から世界の大豆期末在庫は 下方修正も、引き続き高い水準

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2024年3月8日、2023/24年度の世界の大豆需給予測値を更新した (表)。

これによると、世界の生産量は3億9685万トン (前年度比5.0%増) と前月から136万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは、主産地のマツトグロソ州南部やブラジル北東部での高温と乾燥懸念により前月から100万トン下方修正された。一方、これに次ぐ米国は前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7078万トン (同1.6%増) と前月から293万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は前月から300万トン上方修正された。現地報道によると、中国は国内での穀物の豊作が伝えられる中でも、ここ最近、穀物の輸入量を増やしているとされ、中でも大豆は依然と

して不足している状況とされている。

消費量 (搾油仕向け) は、世界全体で3億2819万トン (同4.1%増) と前月から110万トン下方修正された。このうち、最大の消費国である中国は前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億7361万トン (同1.0%増) と前月から304万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは中国の輸入量増加が反映され、前月から300万トン上方修正された。

この結果、期末在庫は1億1427万トン (同11.9%増) と前月から176万トン下方修正されたが、引き続き前年度の水準をかなり大きく上回っている。

現地情報によると、ブラジルの生産量について、今回の下方修正が業界関係者の当初見込みより小さかったことから、作付面積の増加分が乾燥による単収の減少分を相殺している可能性が示唆されている。

表 主要国の大豆需給見通し（2024年3月8日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2021/22年度	22/23年度 (推計値)	23/24年度		
			(2月予測)	(3月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	6.99	7.47	7.19	7.19	▲ 3.7%
生産量	121.50	116.22	113.34	113.34	▲ 2.5%
輸入量	0.43	0.67	0.82	0.82	22.4%
消費量	59.98	60.20	62.60	62.60	4.0%
輸出量	58.57	54.21	46.81	46.81	▲ 13.7%
期末在庫	7.47	7.19	8.57	8.57	19.2%
ブラジル					
期首在庫	29.58	27.60	37.35	37.35	35.3%
生産量	130.50	162.00	156.00	155.00	▲ 4.3%
輸入量	0.54	0.15	0.45	0.45	200.0%
消費量	50.71	53.10	53.75	53.00	▲ 0.2%
輸出量	79.06	95.51	100.00	103.00	7.8%
期末在庫	27.60	37.35	36.30	33.05	▲ 11.5%
アルゼンチン					
期首在庫	25.06	23.90	17.21	17.21	▲ 28.0%
生産量	43.90	25.00	50.00	50.00	100.0%
輸入量	3.84	9.06	6.10	6.10	▲ 32.7%
消費量	38.83	30.32	35.50	35.50	17.1%
輸出量	2.86	4.19	4.60	4.60	9.8%
期末在庫	23.90	17.21	25.96	25.96	50.8%
中国					
期首在庫	28.86	25.15	33.79	32.34	28.6%
生産量	16.40	20.28	20.84	20.84	2.8%
輸入量	90.30	104.50	102.00	105.00	0.5%
消費量	90.00	96.00	98.00	98.00	2.1%
輸出量	0.10	0.09	0.10	0.10	11.1%
期末在庫	25.15	32.34	36.03	37.58	16.2%
世界計					
期首在庫	98.27	93.93	103.57	102.15	8.8%
生産量	360.41	378.06	398.21	396.85	5.0%
輸入量	155.31	168.03	167.85	170.78	1.6%
消費量	316.60	315.18	329.29	328.19	4.1%
輸出量	154.22	171.96	170.57	173.61	1.0%
期末在庫	93.93	102.15	116.03	114.27	11.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国のトウモロコシ生産量、輸出量などは据え置き、生産者価格は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2024年3月8日、2023/24年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

今回はすべての項目が前月から据え置かれたが、生産者平均販売価格は直近の需給緩和を反映して下方修正された。

生産量は、153億4200万ブッシェル（3億8970万トン^{（注1）}、前年度比12.4%増）と前月から据え置かれた。

米国内消費量は、124億5500万ブッシェル（3億1637万トン、同3.4%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、21億ブッシェル（5334万トン、同26.4%増）と前月から据え置かれ、引き続き大幅な増加が見込まれている。

期末在庫は、21億7200万ブッシェル（5517万トン、同59.7%増）と前月から据え置かれ、引き続き大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、14.9%（同5.0ポイント増）と前月から据え置かれ、前年度を上回る水準が見込まれている。

生産者平均販売価格は、前月から5セント下方修正の1ブッシェル当たり4.75米ドル（724円。1キログラム当たり28.5円：1米ドル＝152.41円^{（注2）}、同27.4%安）と大幅な下落が見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラム、1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年3月8日米国農務省公表）

区 分	－単位－	2021/22 年度	22/23 年度 (推計値)	23/24年度			
				(2月予測)	(3月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	92.9	88.2	94.6	94.6	38.28 (百万ヘクタール)	7.3%
収穫面積	(百万エーカー)	85.0	78.7	86.5	86.5	35.01 (百万ヘクタール)	9.9%
単収	(ブッシェル/エーカー)	176.7	173.4	177.3	177.3	11.13 (トン/ヘクタール)	2.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,360	1,360	34.55 (百万トン)	▲1.2%
生産量	(百万ブッシェル)	15,018	13,651	15,342	15,342	389.70 (百万トン)	12.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	39	25	25	0.64 (百万トン)	▲35.9%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,277	15,066	16,727	16,727	424.88 (百万トン)	11.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,427	12,045	12,455	12,455	316.37 (百万トン)	3.4%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,671	5,487	5,675	5,675	144.15 (百万トン)	3.4%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,757	6,558	6,780	6,780	172.22 (百万トン)	3.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,320	5,176	5,375	5,375	136.53 (百万トン)	3.8%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,472	1,661	2,100	2,100	53.34 (百万トン)	26.4%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,900	13,706	14,555	14,555	369.71 (百万トン)	6.2%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	2,172	2,172	55.17 (百万トン)	59.7%
期末在庫率	(%)	9.2	9.9	14.9	14.9		5.0ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.00	6.54	4.80	4.75	28.5 (円/kg)	▲27.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

（調査情報部 横田 徹）

23/24年度トウモロコシ、大豆ともに生産予測を下方修正

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は3月12日、2023/24年度第6回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1、2）。この調査は、春植えの夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

23/24年度トウモロコシ生産量は下方修正により前年度比14.5%減の見込み

2023/24年度のトウモロコシ生産量は、前回より94万3500トン下方修正の1億1275万2700トン（前年度比14.5%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、飼料穀物価格の低迷を反映してトウモロコシから大豆などへ転作が進んだ

表 2023/24年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積 (千ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (千トン)			
	2022/23年度	23/24年度		前年度比増減率	22/23年度	23/24年度		前年度比増減率	22/23年度	23/24年度		前年度比増減率
		(2月予測)	(3月予測)			(2月予測)	(3月予測)			(2月予測)	(3月予測)	
穀物合計	78,546.6	78,311.9	78,124.4	▲0.5%	4.1	3.8	3.8	▲7.1%	319,812	299,750.9	295,591.5	▲7.6%
トウモロコシ	22,269.2	20,444.2	20,361.4	▲8.6%	5.9	5.6	5.5	▲6.5%	131,892.6	113,696.2	112,752.7	▲14.5%
第1期作	4,444.0	3,931.9	3,969.8	▲10.7%	6.2	6.0	5.9	▲4.2%	27,373.2	23,607.0	23,413.3	▲14.5%
第2期作	17,192.7	15,879.8	15,759.1	▲8.3%	6.0	5.5	5.5	▲6.9%	102,365.1	88,098.5	87,348.6	▲14.7%
第3期作	632.5	632.5	632.5	0.0%	3.4	3.1	3.1	▲7.6%	2,154.4	1,990.9	1,990.9	▲7.6%
大豆	44,080.1	45,088.6	45,177.9	2.5%	3.5	3.3	3.3	▲7.3%	154,609.5	149,403.7	146,858.5	▲5.0%

資料：CONAB

注1：2024年3月12日公表データ。

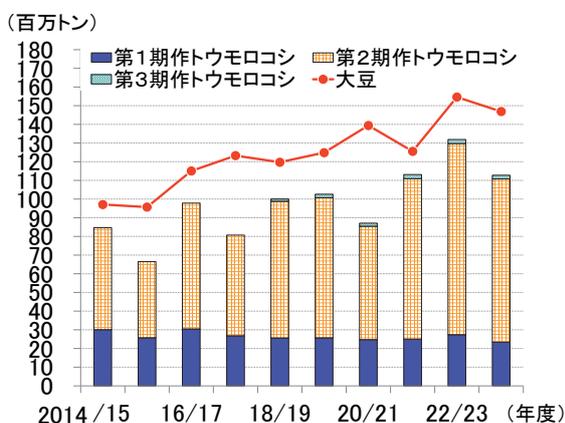
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

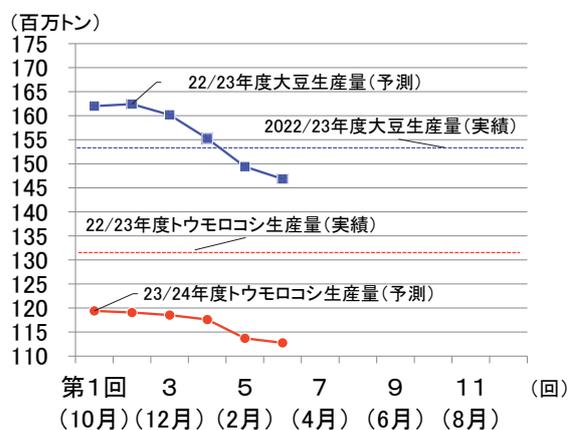


資料：CONAB

注1：2023/24年度は予測値。

注2：2024年3月12日公表データ。

図2 2023/24年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は23年10月公表、以降毎月更新。

ことや、エルニーニョ現象の影響により主産地で極端な天候不順となったためである。

このうち、全生産量の5分の1を占める第1期作の生産量は、2341万3300トン（同14.5%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、エルニーニョ現象の影響により23年10～11月に南部地域で大雨や日照不足、一方、中西部や南東部地域などでは不規則な降雨、水不足および高温となり、^{はしゅ}播種作業の遅れや作物の初期生育に大きな影響を及ぼしたためである。収穫作業は3月初旬時点で作付面積の32.9%が終了

し、前年同期を6.6ポイント上回っている。

また、全体の4分の3程度を占める第2期作の生産量は、8734万8600トン（同14.7%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。播種作業は3月初旬時点で作付面積の86.2%が終了し、前年同期を13.7ポイント上回っている。

23/24年度のトウモロコシ輸出量は、生産量の減少に加え、米国やアルゼンチン産の豊作を背景に国際市場での供給量が増加するため、3200万トン（前年度比41.4%減）と前年度を大幅に下回ると見込まれている。

参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	15,312.1	13,515.3	8,095.9	7,068.4	▲ 12.7
生産量	87,096.8	113,130.4	131,892.6	112,752.7	▲ 14.5
輸入量	3,090.7	2,615.1	1,313.2	2,500.0	90.4
供給量	105,499.6	129,260.8	141,301.7	122,321.1	▲ 13.4
消費量	71,168.6	74,534.6	79,598.9	84,066.7	5.6
輸出量	20,815.7	46,630.3	54,634.4	32,000.0	▲ 41.4
需要量計	91,984.3	121,164.9	134,233.3	116,066.7	▲ 13.5
期末在庫量	13,515.3	8,095.9	7,068.4	6,254.4	▲ 11.5

資料：CONAB

注：2024年3月12日公表データ。

23/24年度大豆生産量は4回連続の下方修正で、前年度比5.0%減の見込み

2023/24年度の大豆生産量は、前回より254万5200トン下方修正の1億4685万8500トン（前年度比5.0%減）と前年度をやや下回ると見込まれている。生産量はこれまで4回連続で下方修正され、当初の予測（1億6200万3400トン）から9.3%（1514万4900トン）減少して前年度割れとなるものの、これまで最大であった22/23年度に

次ぐ水準が見込まれている。作付面積は前年度より増加したものの、エルニーニョ現象の影響によるシーズン初期の極端な天候不順により単収が減少したことが生産量の下方修正につながった。11月以降に播種された大豆については、その後の天候の回復により単収が改善しているが、これまでの損失を補うには至っていない。州別で見ると、最大の生産地である中西部マットグロッソ州では、シーズン初期の不規則な降雨や水不足、高温が作物の生育に悪影響を及ぼし、23年12月以降

の降雨により単収が回復したものの、豊作となった前年度の生産量を17.5%下回ると見込まれている。また、南部リオグランデスル州では、多雨による播種の遅れやその後、干ばつに見舞われ、アジア型ダイズさび病^(注)の発生が確認された。全体の収穫作業は3月初旬時点で作付面積の55.8%が終了し、前年同期を2.4ポイント上回っている。特に中西部で収穫が進んでおり、マットグロッソ州が同89.3%で最も高く、マットグロッソスル州、ゴイアス州と続いている。

23/24年度の大豆輸出量は、前回より183万3700トン下方修正され9232万9800トン（同9.4%減）と見込まれている。これは、生産量の減少のほか、隣国アルゼンチン的大豆生産量が前年度の不作から回復すると見込まれるためである。

(注) アジア型ダイズさび病（病原体：Phakopsora pachyrhizi）は、大豆の葉が落ちるのを早め、豆の形成を阻害することから、単収の大幅な低下につながる疾病である。南米では、パラグアイで最初に確認されて以降、ブラジルやボリビアなどの大豆生産地域にまん延したとされる。

参考2 ブラジルの大豆需給動向

（単位：千トン）

年度	2020/21	21/22	22/23	23/24	増減率 (%)
期首在庫量	4,220.8	9,346.7	5,962.1	3,298.2	▲ 44.7
生産量	139,385.3	125,549.8	154,609.5	146,858.5	▲ 5.0
輸入量	863.7	419.2	181.0	800.0	341.9
種子/その他	3,050.3	2,862.5	3,336.7	3,343.2	0.2
輸出量	86,109.8	78,730.1	101,862.6	92,329.8	▲ 9.4
加工量	45,963.0	47,761.0	52,255.0	52,530.2	0.5
期末在庫量	9,346.7	5,962.1	3,298.2	2,753.6	▲ 16.5

資料：CONAB

注：2024年3月12日公表データ。

（調査情報部 井田 俊二）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年2月の国産トウモロコシ価格、供給増も需要増からわずかに下落

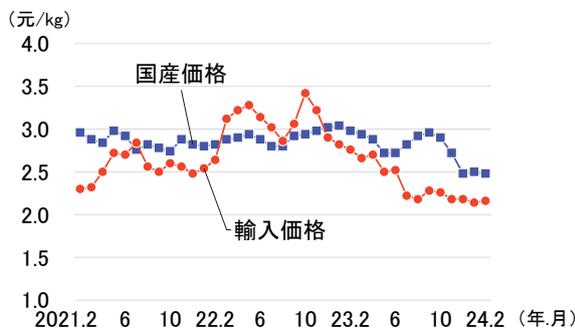
中国農業農村部は3月20日、「農産物需給動向分析月報（2024年2月）」を公表した。この中で、24年2月の国産トウモロコシ価格は前月からわずかに下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では

引き続き産地からの供給が潤沢とされている。需要面では春節が明けてコーンスターチ製造など加工企業からの需要増に加え、国家備蓄向けトウモロコシの買入れも進んでいるとされる。このため、需給はやや弱含みながらも均衡状態を維持しており、短期的な価格も安定した推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、主要養豚

生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着(関税割当数量内: 1%の関税+ 25%の追加関税)は、24年2月が1キログラム当たり2.16元(46円: 1元=21.13円^(注))となった。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)が同2.48元(52円)となったことで、輸入と国産との価格差は先月の同0.36元(8円)から同0.32元(7円)に縮まった。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内: 課税後)。

国産大豆価格、春節明けの売買再開で安定した推移と予想

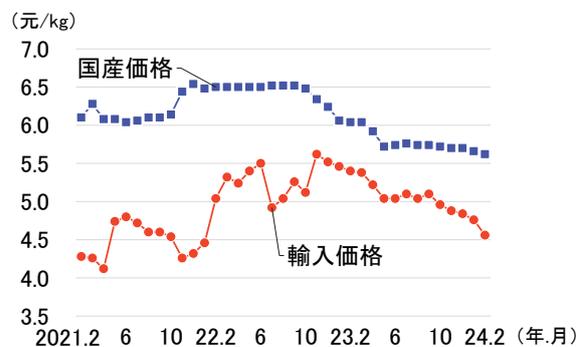
2024年2月の国産大豆価格は、前月からわずかに下落した(図2)。同月の大豆需給を見ると、市場への供給量は安定ながらも、春節や季節行事などを挟む中で、南部での降雪などにより一部生産地での買い付けや消費地での販売の動きが鈍くなったとされる。こ

のため、価格はわずかに下落したが、今後、売買活動が活発になることで、安定した推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年2月が1キログラム当たり4.76元(101円、前年同月比12.5%安)と前年同月をかなり大きく下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同5.62元(119円、同6.7%安)とかなりの程度下回った。また、同月の輸入大豆価格(山東省青島港引き渡し価格、課税後)は同4.56元(96円)となったことで、輸入と国産との価格差は先月の同0.90元(19円)から同1.06元(22円)に広がった。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年3月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格(課税後)。

(調査情報部 横田 徹)